

2020

JCHO群馬中央病院 初期臨床研修プログラム

JCHO群馬中央病院って？

正確には、

『独立行政法人地域医療機能
Japan Community Health care

推進機構群馬中央病院』
Organization と言います。

- ① JCHO群馬中央病院について
- ② 研修プログラムについて
- ③ 待遇等について
- ④ 募集概要

JCHO群馬中央病院

昭和25年4月1日

平成26年4月1日

社会保険病院群馬中央総合病院として開設

独立行政法人地域医療機能推進機構に移行、病院名を「群馬中央病院」に改称

内科

(豊富な症例を経験可)

前橋市中心に位置しており、アクセスの良さから他の医療圏からの患者流入も多く、豊富な症例を経験することが出来ます。

内科系疾患は、ほぼカバーしていますので、コモディティな内科疾患を幅広く、自分たちでマネジメントできます。

病理診断科

病理診断科で扱う組織件数は、ここ数年4,000件前後で推移し、細胞診の検体数は年間1万件を越えています。

検診センターで行われる一次検査から、当院で行われる精密検査、手術検体まで、一人の患者の診断、治療の全経過を診ることが出来ます。

外科

(消化器外科全領域)

手術数は603件(胃がん手術の66%、大腸がん手術の72%は腹腔鏡下で実施)

縫合・切開等の基本的な外科手技や中心静脈確保から重症患者の管理まで経験できます。

整形外科

(膝・脊椎の手術700件以上)

手術総数は778件

四肢及び脊椎の外傷、変形性疾患などダイナミックな手術から細かな作業まで自分にあう分野があります。専門性のみならず、一般整形外科疾患の治療や救急医療にも力を注いでいます。

小児科

(新生児から小児まで)

- 専門病床60床 (NICU機能16床)
- 入院患者1,600件以上
- 紹介患者1,700件前後

小児入院は感染症、神経疾患、アレルギー性疾患等多彩で、新生児の人工呼吸管理も多くあります。

麻酔科

(できる研修医に仕上げます！)

気道確保、脊髄くも膜下穿刺、静脈ライン確保から呼吸管理、循環管理、疼痛管理、などを豊富に経験できることが特徴です。

- 麻酔科管理手術約2,000件
- 危機管理能力(知識・技術・判断力)が習得できる

産婦人科

(分娩数624件、手術数588例)

重篤な合併症を有する妊婦さんなどを24時間体制で受入れ、小児科と連携し母体、胎児、新生児の集中医療を実施。

- 産科婦人科内視鏡学会認定施設
- 県内の総合病院の中で分娩数は最多
- リプロダクションセンター設置

放射線科

1日の外来数は656人、入院数は235人なので院内の画像診断の大部分に関わっていると言えます。優れた放射線科医を目指すなら、当院の初期研修からスタートし、後期研修に移行することをお勧めします。

- 病院1日の総読影量70件前後
- 検診の1日の読影量20~50件



JCHOロゴ

※実績、件数等は平成29年度より

循環器内科

- 心臓・下肢血管カテーテル法 250件
- 経皮的冠動脈形成術 159件
- FFR（冠血流予備量比）118件

少人数制なのでカテーテルによる検査や治療を担当する機会が多くその他ペースメーカーや中心静脈確保、胸・腹腔穿刺、心エコー検査等様々な手技を勉強できます。

消化器内科

（年間12,000件を超える内視鏡検査）

急性腹症、吐下血など急性疾患から炎症性腸疾患、肝疾患、消化器がんなどの診療を行っています。

消化器中心に研修を希望する方は内視鏡検査、エコー、生検技術等の習得が可能です。

神経内科

脳卒中の急性期治療、片頭痛、めまい、パーキンソン病、認知症（アルツハイマー病など）、重症筋無力症などに幅広く対応しています。神経内科・神経救急・老人医療・地域医療など幅広く研修を行います。医師の眼からの“気づき”も大変重要です。これらの観点は将来どの領域に進んでも必ず役に立つものです。

糖尿病内科

糖尿病・合併症について全般的に理解し、的確な検査・診断・治療が行えるよう、必要な知識や技術を習得します。糖尿病教育入院のほか、緊急性のある糖尿病患者に対しての初期対応、担がん患者や術前・後の血糖コントロール、妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠など、受け持ち医として経験していきます。

眼科

年間手術数は300～380件前後

手術は主に白内障手術です。また、一般診療として何でも多くの疾患を診断できるように、検査一般、診断、治療（内科的、外科的）を学ぶことができます。また、斜視、弱視治療から未熟児の診察に至るまで小児眼科を学ぶことができます。

選択科目（群馬大学附属病院）

群馬大学附属病院において救急科・腎臓内科・血液内科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・NICU（小児科）の選択ができます。

選択期間は1か月となります。

皮膚科

主に湿疹・皮膚炎、皮膚感染症、蕁麻疹、薬疹など他科においても遭遇する機会が多い疾患や、膠原病、自己免疫性水疱症、皮膚悪性腫瘍など皮膚科専門医に委ねるべき疾患について学びます。

精神科（赤城病院）

統合失調症、うつ病、躁うつ病、器質性精神障害などのプライマリケアに必要な基本的な知識を一般臨床医として身につける。

また、向精神薬の使用法や指示的精神療法を学びます。

地域医療（協力病院）

病診連携協力医のもとでの在宅研修や地域医療の実践を経験します。

2年次に協力施設のうちの2施設にそれぞれ2週間実地研修として出向します。

総合内科（城東病院）

JCHO東京城東病院で研修を行います。

①内科全般の基礎を身につけることと
②プライマリ・ケア領域に必要なスキルを身につける事を目標にしています。
また、カンファレンスを毎日行っています。

研修協力病院及び研修協力施設

平成30年度プログラムよりJCHO東京城東病院が追加になりました。



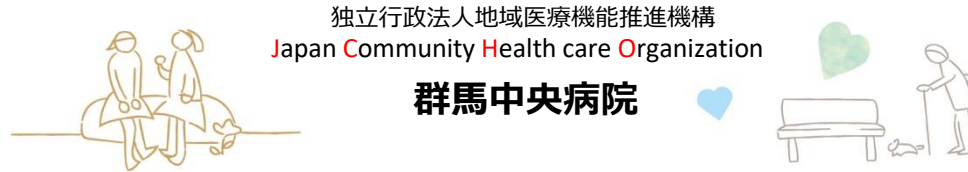
群馬大学医学部附属病院
(皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科)



赤城病院 (精神科)



JCHO東京城東病院 (内科・総合内科)



独立行政法人地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization

群馬中央病院



ほんま小児科 (地域医療研修)



中村外科医院 (地域医療研修)



ベル小児科クリニック(地域医療研修)



たき医院 (地域医療研修)



神岡産婦人科医院 (地域医療研修)



伊藤内科医院 (地域医療研修)

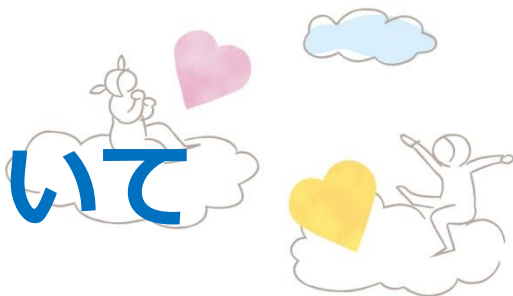


すがの内科医院 (地域医療研修)



かなざわ小児科クリニック (地域医療研修)

JCHO群馬中央病院 初期臨床研修一般プログラムについて



当院の研修プログラムは選択期間が14か月と長く、自由度の高いプログラムとなっています。

診療体制が充実しており、20科目のうち14科目は自院で研修することが可能なため、急に研修内容を変更したい場合でも柔軟に対応することができるからです。もちろん希望に応じて協力施設で研修することも可能です。2年間の研修を有意義に過ごすことができるよう、よりよい環境になるよう努めています。

また、実際の現場では大規模医療センターと異なり、少人数制なので積極的に治療に携わってもらう機会が多く、様々な技術習得が可能です。

・当院で研修可能な研修プログラム（15）

内科、循環器科、消化器内科、糖尿病、神経内科、外科、整形外科、
病理診断科、眼科、放射線科、麻酔科、小児科、産婦人科、救急
皮膚科

・協力病院等で研修可能なプログラム

（群馬大学） 腎臓内科、血液内科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、救急

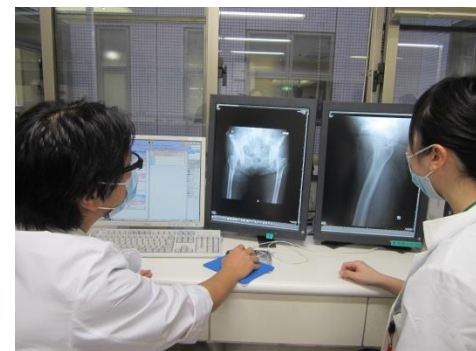
（JCHO東京城東病院） 総合内科

（赤城病院） 精神科

（近隣開業医） 地域医療研修



麻酔科研修



整形外科研修

上級医といっしょ



初期臨床研修一般プログラム①

必修科目

① 内科

当院が前橋市中心に位置しているため、アクセスの良さから他の医療圏からの患者流入も多く、豊富な症例を経験することが出来ます。

1年次に24週、研修を行います。4週を1タームとして内科Ⅰ（循環器）、内科Ⅱ（消化器内科）、内科Ⅲ（神経内科）、内科Ⅳ（糖尿病）の4タームの中から3タームをローテートします。内科系疾患は、ほぼカバーしていますので、コモンな内科疾患を幅広く、自分たちでマネジメントできます。

② 外科

縫合・切開等の基本的な外科手技や中心静脈確保から重症患者の管理まで経験できます。消化器全領域にわたる疾患が学べ、外科的疾患に対して臨床医が要求される診断法・検査・手技を学べる研修プログラムになっています。

③ 産婦人科

妊娠前からの不妊から始まりその後の妊娠管理、出産、異常妊娠、合併妊娠などの診療の基本を身につけます。また、合併症を有する妊婦さんなどを24時間体制で受入れ、小児科と連携し母体・胎児・新生児の集中医療を実施しています。

④ 小児科

一般小児はもちろん循環器や神経発達、新生児アレルギーの専門的指導を受けられる体制となっています。救急搬送も積極的に受入れを行っています。



内科研修



外科研修

初期臨床研修一般プログラム②



必修科目

⑤救急

救急搬送される患者、開業医からの紹介で緊急対応を要する患者、重篤な合併症をもつ妊産婦などに対して適切な対応をするために、1年次に8週、2年次に4週の計12週研修します。

1年次の初めの4週は麻酔科で救急救命の初期スキルを習得し、残りの2カ月は外科を中心に院内各科の頻度の高い救急疾患の初期治療から入院まで診療に当たります。

救急搬送は年間1,578件（H29実績）です。

⑥精神科

統合失調症、うつ病、躁うつ病、器質性精神障害などのプライマリケアに必要な基本的な知識を一般臨床医として身につけます。また、向精神薬の使用法や指示的精神療法を学びます。

⑦地域医療

患者さん（家族）が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について実践し、病院との連携について理解することを目的として2年次に研修協力施設（開業医）で4週間研修します。

選択研修科目（19）

希望の研修科を選択し、各科最短1ヶ月の単位で研修が可能です。なお、一部の科目については協力施設で研修となります。

内科（循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科）・病理診断科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・眼科・皮膚科・放射線科・麻酔科、またJCHO東京城東病院で総合内科、群馬大学附属病院にて（救急科・腎臓内科・血液内科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科）を選択することも可能です。

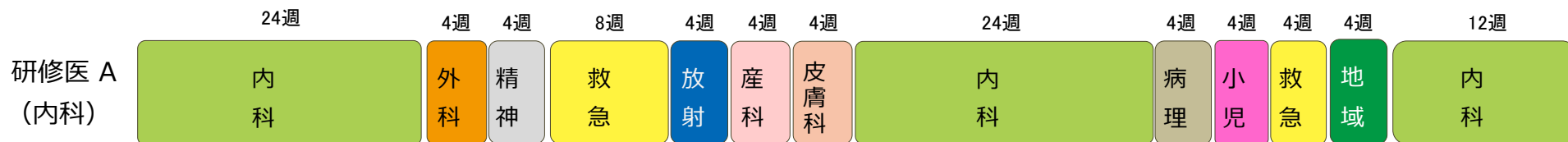
ローテーションについて（参考）

実際に当院のプログラムで研修したローテーション表



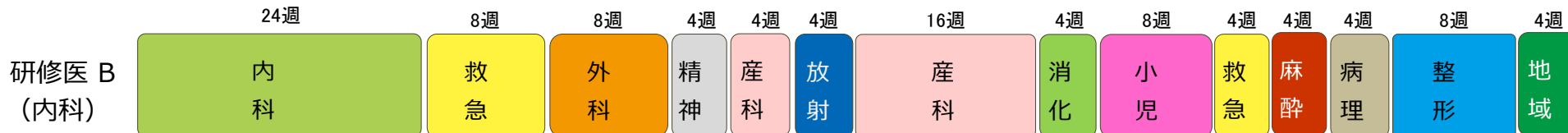
1年次

2年次



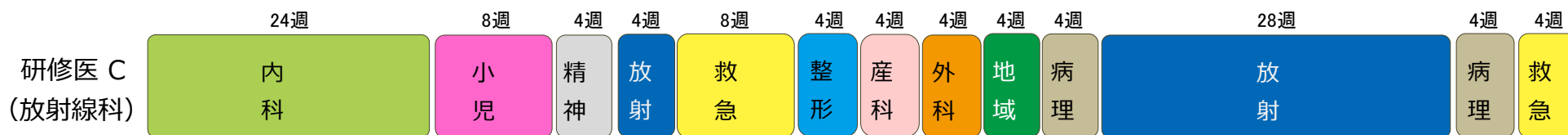
1年次

2年次



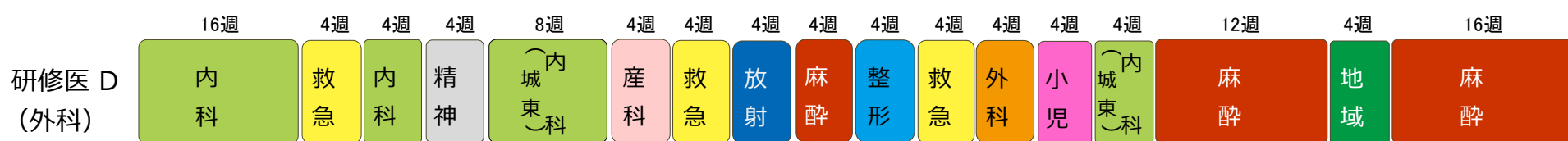
1年次

2年次



1年次

2年次



小児科・産婦人科重点プログラム概要



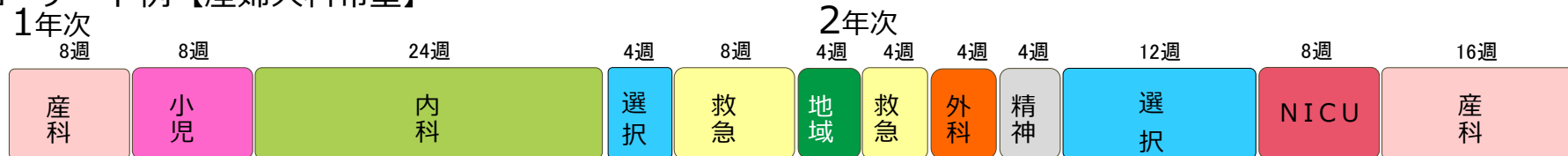
①当院は産婦人科は群馬県内で有数の分娩数を誇り、地域周産期母子医療センターとなっています。小児科も県内の小児救急医療に多大の貢献をしています。その特徴を活かし平成31年度から小児科・産婦人科重点プログラムを新規に設けます。とくに将来小児科あるいは産婦人科に進むことを考えている研修医のためのプログラムです。

②必修科目のうち、内科6ヶ月と救急部門2ヶ月は原則として1年次に研修、救急部門の残り1ヶ月と地域医療1ヶ月は2年次に研修を行い、原則として小児科あるいは産婦人科をはじめの4ヶ月研修し、2年次に進む希望科に必要なと思われる科を中心に研修をします。また、2年次には群馬大学の小児科(NICU)にて必ず研修を行います。

□一タート例【小児科希望】



□一タート例【産婦人科希望】



産婦人科研修



小児科研修

待遇について

- 常勤職員（任期付）
 - 勤務時間等
月～金 8:30～17:15 7時間45分（1日）
 - 休暇
土・日・祝日、年次有給休暇（初年度15日）
年末年始休暇、病気休暇、夏季休暇、
その他特別休暇あり
 - 給与
1年次 452,400円 2年次 487,200円
 - 賞与
1年次 780,000円（年） 2年次 840,000円（年）
 - 手当
宿日直手当 20,000円（回）
住居手当 ～27,000円（月）
- その他
職員食堂（1食370円～）・院内保育所完備



研修医室、電子カルテあり
(医局とは別に研修医室があります)



院外発表会



研修医勉強会

募集定員

7

令和2年度の募集定員は 名です。(予定)

- ・一般研修プログラム 5名
- ・小児科・産婦人科重点プログラム 2名

病院見学受付中

病院見学は随時受付中です。お気軽にお問い合わせください。
お申込は、希望日の2週間以上前にメールにてご連絡ください。
メールには、①氏名 ②大学 ③学年 ④卒業年度 ⑤連絡先
⑥見学希望期間 ⑦希望診療科を記入し、
題名に「病院見学希望」と書いて申し込んでください。

⇒ 採用試験は7月から8月のうち3日間を予定しています。



申込み・問合せはこちらまで

代表 **027-221-8165**

main@gunma.jcho.go.jp

病院代表メールQRコード

ホームページ:gunma.jcho.go.jp



まずは見学



納涼会 (8月)



JCHO学会 (11月)



院内研究発表会 (2月)



消化器内科研修



売店 (本館1F)



図書室 (研修医室となり)



秋の交流会 (10月)